

2011.06

Vol. 229

Bulletin

The Japan Institute of Architects Kanto-Koshinetsu Chapter

Annual Report 2010

UIA
2011
TOKYO

DESIGN
2050

特集

UIA2011 東京大会までの道のり

支部長挨拶・四役の声／委員会活動報告／地域会活動報告／部会活動報告

CONTENTS

特集：
UIA2011 東京大会
までの道のり

3 UIA2011 東京大会までの道のり

- 4 UIA 総会出席&イスタンブール都市建築視察
- 5 2002年ベルリン大会での UIA 東京大会誘致の顛末
- 6 UIA 大会開催までの 11 年間の歩み
- 6 過去大会出席者のひと言

支部長挨拶

8 JIA 関東甲信越支部 支部長 上浪 寛

四役の声

- 9 ・幹事長 河村 大助 ・副幹事長 今井 均 ・副幹事長 堀越 英嗣
- 10 ・副支部長 西勝 郁郎 ・副支部長 赤羽 吉人 ・副支部長 大澤 秀雄

委員会活動報告

- 11 ・総務委員会 ・アーバントリップ実行委員会 ・建築セミナー実行委員会
- ・JIAトーク実行委員会 ・学生デザイン実行委員会 ・大学院修士設計展実行委員会
- 12 ・広報委員会 ・交流委員会 ・建築相談委員会
- ・保存問題委員会 ・支部建築家資格制度委員会 ・アーキテクト・ガーデン実行委員会
- 13 ・顧客支援システム委員会 ・UIA東京大会支部推進委員会 ・委員会一覧

JIA 関東甲信越支部事務局

13 JIA 関東甲信越支部事務局

地域会活動報告

- 14 ・JIA 神奈川地域会 ・JIA 千葉地域会 ・JIA 埼玉地域会 ・JIA 茨城クラブ
- 15 ・JIA 栃木クラブ ・JIA 群馬地域会 ・JIA 山梨クラブ ・JIA 長野県クラブ
- 16 ・JIA 新潟クラブ ・JIA 中野クラブ ・JIA 三多摩地域会 ・JIA 杉並地域会
- 17 ・JIA 新宿地域会 ・JIA 城東地域会 ・JIA 文京地域会 ・JIA 渋谷地域会
- 18 ・JIA 世田谷地域会 ・JIA 千代田地域会 ・JIA 中央地域会 ・JIA 城南地域会
- 19 ・JIA 城北地域会 ・JIA 港地域会 ・JIA 目黒地域会 ・地域会一覧

部会活動報告

- 20 ・ミケランジェロ会 ・デザイン部会 ・都市デザイン部会
- ・住宅部会 ・メンテナンス部会 ・住宅再生部会
- 21 ・情報開発部会 ・建築交流部会 ・学芸祭部会
- ・建築家写真倶楽部 ・部会一覧

2010 年度・UIA 支援金協力者
(支部会員)

22 2010 年度・UIA 支援金協力者 (支部会員)

原稿募集のお知らせ

24 ・市民向けサイト「建築家 ONLINE」投稿募集 ・会員向け広報誌「Bulletin」原稿募集

広報からのお知らせ

25 Bulletin に広告を掲載しませんか

25 編集後記

26 ・過去の UIA 大会 ・JIA の歴史 ・UIA の歴史



社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA 館
Tel: 03-3408-8291 Fax: 03-3408-8294
http://www.jia-kanto.org/members



表紙・上記写真 東京国際フォーラム

UIA2011 東京大会までの道のり

UIA とは

UIA (UNION INTERNATIONALE DES ARCHITECTES: 国際建築家連合) は、130 万人を超える世界の建築家を代表する組織です。国籍、人種、宗教、建築的信条を問わず、世界中の建築家を束ね、各国の代表する組織を連合しています。主要な活動領域は、「教育」「職能実務」「設計競技」の3つです。このうち、設計競技では「シドニー・オペラハウス」パリの「ボンビドゥー・センター」、「東京国際フォーラム」などの成果を通して、模範的な国際設計競技のあり方を示しています。

JIA との関わりは？

JIA は国際建築家連合 (UIA) の唯一の日本支部です。アメリカ AIA とも連携し、またアジア建築評議会 (ARCASIA) の中心メンバーです。サステナブルシティ、サステナブルビルディングや建築教育等、国際的な問題について交流を図っています。UIA に JIA から理事を出しています。



ボンビドゥーセンター

UIA 大会の意義とは？

1948 年にスイス・ローザンヌ開催以来、今回で 24 回目となる (ほぼ 3 年に一度、世界各都市で開催) 第 24 回世界建築会議 (UIA2011 東京大会) は、初の日本開催です。世界中の建築家、様々な専門家や研究者や学生が一同に会し、市民と共に、シンポジウムや展示、見学会やイベントを開催し、建築を通して、異なる文化の貴重な交流の場となっています。

UIA 東京大会では！

東京大会も過去の UIA 大会と同様に華やかに幕を開ける予定でしたが、東日本大震災を受けて、その規模と内容に大きな変更を行っています。お祭り色を排し、開催費用の削減を計ると共に、全てのプログラムに共通のテーマとして、災害から学び、災害復興支援にどう取り組むかを掲げて、その活動を通じて建築家として社会から付託された役割と責務を担っていくことを、社会に向けて発信する大会に生まれ変わらせようとしています。建築家として、JIA 会員として、公益に寄与するための絶好の機会が提供されることとなります。参加を躊躇する理由はもう見当たりません。皆さん誘い合わせてこの生まれ変わった大会に参加しましょう。



ラ・デファンス



フランス国会図書館



オペラハウス



ラヴィレット公園

UIA総会出席 & イスタンブール都市建築視察



前関東甲信越支部長
伊平 則夫

■ 2005年7月のUIA イスタンブール大会になるべく多くのJIA会員が参加して、日本代表団の現地活動支援をしようと、JIA主催のツアーが企画されました。7日間の全日程をイスタンブール市内で過ごすもので、表題の名称のもと、30名のJIA正会員、賛助会員とその婦人、友人達が参加・出発しました。

夜、8時到着予定のフライトが大幅に遅れて、ホテルに着いたのは深夜の0時を過ぎたと記憶していますが、元気の良い参加者は、マタ・ハリの活躍で有名な『オリエント・エクスプレス・バー』で一杯やっってから部屋に入ったようです。明けて第1日目は午前中にトプカブ宮殿などオスマントルコのイスラム建築を見学。昼食を旧市街中心部のホテル最上階のレストランでとりましたが、目の前のアヤ・ソフィア、ブルーモスクと旧市街のまちなみは息を飲む絶景でした。昼食後、ホテルの会議室に於いて現地で活躍されているジラルデッリ青木美由紀さんの「19世紀のオスマン建築」の講演を聞き、数多くのスライドを見てから、ボスポラス海峡クルーズをゆっくりと楽しみました。大型遊覧船の上ではアルコールが付いて、時差ぼけ長旅の疲れの残る体に船が切る風が心地よく渡って行きました。海峡沿いの歴史建築物、高級別荘群を見て、また途中下船し古い街並みを散策し、黒海の入り口まで行って引き返して来ました。この海峡は潮の干満の差が少ないとの事で、出窓が特徴的なオスマン時代の家々も水面上に立ち並んでいます。夕食は金角湾越しに旧市街を望む新市街側の水辺のレストランで皆が一緒にとりました。とても沢山の感動があった日で、帰国後参加者の間で話題になるのはUIA参加よりもこの日のことが多いようです。2日目は午前中にイスタンブールの近代建築、午後はビザンチン時代の建築・美術の見学でした。途中で偶然見つけた、海峡を見下ろす素敵な建築事務所の見学が参加者の強心臓で実現しました。とにかく遺跡、建築、美術の宝庫でその数と街の波乱万丈の長い歴史に圧倒されます。

さて、UIA大会総会参加はツアー3日目でした。UIA大会は新市街を少し外に向かったコンベンション地区内にあるルメリホールで行われていました。その一画に日本建築家展のTokyoブースが設け



JIA主催 レセプションパーティー

られ、JIA事務局がありました。誘致競争相手の南アフリカ(ダーバン)のブースも並んでいます。総会会場では各種の審議、選挙が行われていました。その夜は近くのヒルトンホテルでJIA主催の誘致パーティです。ツアー参加者全員が日本代表団と一緒に、各国のUIA理事、建築家と交歓しました。なるべく多くの方に日本の名刺をお渡ししようと、会場内を歩き自己紹介して回りました。明るく日の午前中がUIA大会候補都市のプレゼンと投票です。ツアー4日目の日曜日でした。日本代表団は「えん、en、Kaleidoscopic Showcase、yes! Tokyo」などを標語に頑張り、ダーバンに競り勝ち開催権を勝ち取ったのです。ツアー参加者の半数はUIA総会場で都市プレゼンと投票を見守りました。この日、半数はオプションツアーで海峡対岸、アジア側のウスキュダルの建築視察に向かいましたが、ペイレルベイ宮殿の見学途中でケータイで投票結果の朗報を受け取りました。直後の昼食は、ボスポラス海峡に浮かぶ乙女の塔を目の前に、その海の先に旧市街を遠望しながら、晴天の空の下、トルコ料理と「当選」の結果を噛み締めて、とても充実した気分でした。

午後3時にホテルに戻り、つぎの日午後3時の出発までが自由時間で参加者はそれぞれに最後のイスタンブールを楽しみました。滞在中幾度も出入りした定宿『ペラパレス・ホテル』は、オリエント急行会社がパリからの乗客の為に1891年に建てたもので、往年は超高級ホテルとして、サロンでは舞踏会などが開催されワインやシャンペンに特別料理が出されたとの事です。第一次世界大戦後には英国占領軍がこのホテルを本拠地とし、トルコ建国当初にアタチュルクが執務室として使用し、またアガサ・クリスティエーはこのホテルで「オリエント急行殺人事件」を書いています。かれらの使った部屋が当時の様子で残されており、19世紀末イスタンブールで最初に設置されたというエレベーターがまだ現役です。部屋からの金角湾と市街の眺めが良く、ホテル内にいるとタイムスリップして古き佳き時代の歴史を感じ、飽きることはありませんでした。UIA大会東京誘致に立ち会った、賞味4日と半日のイスタンブール滞在でした。

(a & u d l 建築研究所)



トプカブ宮殿 イフタリエ東屋の前で

2002年ベルリン大会でのUIA東京大会誘致の顛末



元関東甲信越支部長
松原 忠策

■ 2002年7月UIAベルリン大会が開催された。JIAは創立以来の悲願でもあったわが国へのUIA大会誘致を本気になって決めていた。1948年の第一回大会から3年ごとに開催される大会は、アジアでは唯一'99年に北京でUIA大会が開催されている。その大会でわが国では始めて名古屋が大会を誘致するべく立候補したが、実らなかった。そこでJIAは6年後の2008年にUIA東京大会の開催に向けて、国をはじめ東京都や他の建設関連の諸団体とも一丸となって誘致を成功させるべく全力を傾けた。

われわれ関東甲信越支部は、本部の大会誘致委員会から、出来るだけ多くの会員をベルリン大会へ参加させ、大会後の総会で投票権をもつ、各国のUIA理事を招いて行われるJIAパーティーを取り仕切って欲しいという要請があった。

大会は、22日のウエルカムパーティーから始まり、23日から26日まで4日にわたって開催され、その後27日から29日までUIA総会が続ぎ、最終日の29日に6年後の大会開催地の投票が行われた。開催誘致のためにはこの3日間が勝負どころであったがこの大会で立候補した都市は、アジアから東京と韓国の釜山、ヨーロッパからイタリアのトリノと、スペインのセビリアであった。そして、この間に各都市ともそれぞれに宣伝ブースを立ち上げ、ランチの接待、開催地のPRのためのパーティーを開催し、JIAはこのほかにも23日に日本大使館において、野村一成大使の主催で日本大使レセプションを開いた。そして27日の総会会場での東京ランチに引き続き、28日にはヘルムートヤーンが設計したベルリンのポツダム広場に建つ、ソニーセンターでJIAレセプションが行われた。

われわれ関東甲信越支部はこのためのツアーを企画したが、大会の初日から29日の総会の終了日まで8日間と長い日程は、多くの会員が参加するには長すぎた。そこで総会開催の間に行われるパーティーを仕切るために、大会最終日の26日にベルリンに入り総会終了の翌日30日にベルリンを離れる日程を組み、その間ベルリンの様々な建築の視察を行った。ハンス・シャロンのベルリンフィルやミースのナショナルギャラリー、ジェイムス・スターリングのベルリン科学セ



UIAベルリン大会 総会

ンターなど壁崩壊以前のものから、新しいベルリンでは、世界中の建築家の活躍をつぶさに見て歩いた。レンゾ・ピアノのダイムラシティ、ジャンヌーベルのギャラリーラファイエット、ダニエル・リベスキンドのユダヤ博物館、そしてノーマン・フォスターのドイツ連邦会議、DGバンクのフランク・オー・ゲーリー、更にはニコラス・グリムショウやドミニク・ペロー、マリオ・ボッタ等々。日本からも磯崎新、黒川紀章の作品など、世界的建築展の様な作品の数々を見た。勿論近代建築史でも忘れられないペーター・ペーレンスのAEGタービン工場もある。そして、省エネを意図したベルリンのガラスカーテンウォールの技術を、実際にかかわったガードナー社の技術者に現地の案内と技術説明を受けることにした。その結果、ラーゼファームの会員を中心に、賛助会員も加わって30人の参加者が集まった。それだけの会員が集まってその上パーティーを盛り上げる企画は無いかという思案した結果、津軽三味線の2人姉妹のグループ「あんみつ」を連れて行くことにした。そして、いよいよ東京レセプションである。われわれがソニーセンターの前でプラカードを持って来場者を案内し、会場が華やかなプレゼンテーションが行われ、参加者は200人の予定が400人をこえて、世界中の建築家との交流も進んだ。そして津軽三味線の演出も受け、寿司などの軽食も全て品切れになっても、最後の客がなかなか帰らず、われわれは11時を過ぎてようやく夜食にありつくという有様だった。

翌日の投票は、次期会長の選挙などが長引いて、大会開催地の投票も大幅に遅れ、誘致運動の成果を信じて祝賀会場に集合したわれわれにはなかなか朗報が届かない。やがて1回目、2回目と1位を獲得したとの情報はあったが、過半数には至らない。ようやく3回目の投票が行われたが、そこでヨーロッパ勢の巻き返しに合いトリノとセビリアが連携して、東京は僅差で敗れたとの報告があったのは夜中の12時を過ぎてからだった。

しかしこの残念な経験がイスタンブールでの勝利に繋がったことは、われわれの努力が無駄ではなかったと、今はそう思う。

(松原建築D・I研究所)



ベルリン ソニーセンターからベルリンフィルを望む

UIA大会開催までの11年間の歩み



UIA2011 Tokyo
日本組織委員会広報部長
国広 ジョージ

■ JIA 会員の念願であった「UIA2011Tokyo」第24回世界建築会議の開催まで、あと約4ヶ月を残すこととなりました。

私たちは1999年の北京大会で、世界建築会議を日本へ誘致しようと一丸となり、東海支部先導で名古屋市が立候補しました。しかし、無念な結果となり、誘致が失敗に終わったことを覚えている会員の方々も多々おられるでしょう。その後、前川国男先生を含む諸先輩たちの意志を遂行すべく、2002年、今度は関東甲信越支部が立ち上がり、東京都の立候補が実現しました。

私はこのベルリン大会から誘致活動に参加し、UIA大会実現への道をみなさんと一緒に歩み始めました。思い出に残るのは、ベルリンにあるソニービルの最上階ホールで、樽酒と寿司を持ち込んで開催した大パーティーが、大盛況だったことです。横文彦先生はワインを楽しみながら壇上で激励のご挨拶をされ、私は壇上で騒ぎながらも、ホールいっぱいに集まった世界の建築家の方々に必死で盛り上げました。この年の開催地決定の投票は今日のような電子投票システムを導入しておらず、数々の接戦選挙投票の末、予定を上回る大幅な時間を必要とせざるを得ない悲惨な状況で、4都市の最終投票が始まりました。最初は優勢であった日本は、当初予想されていなかった都市の参入により過半数を取れず、最後には時計が真夜中を回り、支持者も退席してしまうという最悪の状態が生じてしまったのです。結局、この年の東京誘致も失敗に終わりました。

2度の失敗を経験したJIAでは、2005年のUIA大会への立候補について議論を繰り返し、開催都市・東京が再び立候補することになった

のです。7月に入り、私たち誘致委員会一行は「3度目の正直」などとゲンを担ぎながらイスタンブール入りし、現地での誘致活動を行いました。私は役目となった「盛り上げ屋」として、パーティーのナビゲーターを担当し、また、総会では岩村和夫さんと共に壇上へ上がり、誘致のプレゼンテーションを実施しました。

結果は17票という僅差でしたが、とうとう2011年UIA東京大会の開催が決定したのです。日本で初めて、アジアでは北京大会以来2度目の開催となるこの2011年大会の実現まで、じつに11年の歳月が流れました。

しかし、2011年3月11日、午後2時46分、日本の将来の行方を完全に変えた出来事が起こりました。長く、激しい震動、そして、悪魔に呼び起こされたように大手を広げて上陸し、すべてをさらってしまった太平洋の津波。

21世紀に入って一日も怠ることなく継続して準備を進めてきたUIA大会は、日本開催の企画構想を、東日本大震災という災害を機に、大会自体の位置付けさえ大きく変わってしまったのです。そして、この日本の現状を世界と共有し、災害と復興について、おおいに議論できる建築家の祭典として注目される場となりました。

JIA会員全員、特に我が関東甲信越支部の建築家の念願だった大会開催の意義が倍増することになるとは、11年前のJIAでは誰が予想したことでしょうか？

さあ、もう一息で頂上です。進みましょう。

「災害を乗り越え、一丸となって、新しい未来へ！」

過去大会出席者のひと言



上垣内 伸一

私が参加したのは直前大会であるUIA2008トリノ大会でした。当時トリノは新しく始まったワールド・デザイン・キャピタルの最初の開催都市でもあったために、その相乗効果もあって街中がデザインイベント一色となっており、UIA大会会場内外で活発な人の動きがあったと思います。市中の観光スポットや展示スペースで、大会登録証をぶら下げた各国の見ず知らずの建築家が遭遇して仲良くなる光景に出くわすたびに、同じ目的で集まる世界大会ならではの面白さを実感しました。



上浪 寛

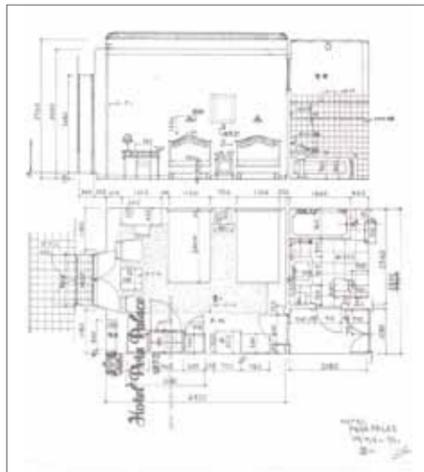
私は2005年イスタンブール、2008年トリノ大会に参加しました。イスタンブールでは総会へオブザーバー参加し、最終日には2011年東京大会決定の瞬間を市内で聞き、皆で祝いました。5泊6日をイスタンブールのみで過ごし、アジア、ヨーロッパの狭間の都市を満喫しました。トリノではジャパンハウスとして企画した街中の旧王宮施設のセットアップに立ち会い、大会期間中はセミナーや展示を見て歩き、9,000余人の大会参加者のボリュームを肌感じて楽しんできました。



イスタンブール 2005

遠藤 勝勳

2005年7月6日から12日まで、UIAイスタンブール大会に当時関東甲信越支部長、伊平剛夫さん以下総勢32名で東京大会誘致のお願いに出かけました。「結果は大満足」宿泊した所は、アガサクリスティが、有名なオリエンタル急行殺人事件の原稿を書いた、HOTEL・PERAPALAS。ホテルに着いて大騒ぎ、バスは水漏れ、シャワーは水が出ず、修理の為一晩中工事の騒音、お陰で全員寝不足、そのまま大会に出席、その事が成功した理由ではと今は懐かしく思っています。（*このスケッチはホテルに、レターペーパーが無く仕方なくホテルの封筒を裂いて描いたものです。）



中山 信二

2005年7月の東京は何時もの暑い夏だった。成田空港から約12時間かけて我々関東甲信越支部のUIA大会ツアー一行は、当時の伊平副支部長を団長としてイスタンブールに飛んだ。空から見るイスタンブールの街は、ローマと同じ幾つもの丘の集合体からなる。光と風が実に爽やかな街だ。北国生まれの小生も思わず唸るほどのビールが美味しい。一行は約25名。オリエンタル急行で有名なアガサクリスティの常宿であったペラパレスホテルに着く。上浪現支部長と一緒に東南の角部屋に巡り合い、毎朝窓を開けてバルコニーからの眺望を楽しんだ。街並みウォッチングはブルーモスク等の歴史的建造物巡りが多かったが、現地の設計事務所を飛び入りで見学できて交流できたことはラッキーだった。最大の収穫は、200人乗りのクルーズ船を貸し切って25名の一行がボスポラス海峡に乗り出したことだ。格安ツアーにも関わらず mismatchの望外の楽しい思い出となる。屋根付



きデッキの上で、フリードリンクのワインを片手に両岸のシーサイドハウスと行きかう船舶をゆっくり半日眺めて過ごす。これが桃源郷でなくて何だろう。翌日には投票の結果東京大会も決定しJIA活動に参加していることの意義をしみじみ感じたツアーであった。

久間 常生

UIA大会ではパーティやエクスカージョンで世界中の建築家と交流し、開催国のまちや建築に接し見聞を広められます。ベルリン大会では厳しい警戒の中、日本大使館での東京大会誘致パーティは緊張ある体験でした。イスタンブール大会では東京大会決定の感動的現場にのぞみ、トリノ大会では東京開催に向けて楽しい交流ができました。建築界もパラダイムの変換が迫られる厳しい現況ですが、我が国のまち・建築の魅力に参加の内外の方々を紹介し、もてなしの精神で様々な共有が得られればと思います。



西勝 郁郎

私のUIA参加は「サスティナビリティ」の概念がその後世界的テーマとなった1993年開催のシカゴ大会が最初でした。ここ数回のUIA大会にも参加して、開催国の文化や歴史や国民性を直接肌で感じられる喜びと、世界中の建築家が大小のテーマセッション毎に継続した会議を行っている事など驚きと魅力でいっぱいでした。前回トリノ大会では、王宮の馬小屋跡(カバレリツア)を会場に日本の独自企画として建築家展を開催するなど、参加すればするほど楽しさは倍増です。しかも今大会はホスト国です。あなたの参加が世界を変えます。



立石 博巳

JIA関東甲信越支部のメインツアーグループで、大会レセプションの前日、ヒルトンホテル前のクラブホール「キャラバンサライ」に出掛けました。各国の観客300人、有名ダンサーの華麗な演技を中心に観客参加の舞台イベントで、遠藤勝勳夫人とソーラン節を歌い、再度登壇下手な英語でJIAの紹介と自己紹介、歌舞伎スピーキング(声色)を披露し、ヤンヤの喝采を受けて大変楽しい思い出をいただきましたが、TOKYOに決まらなかったらどうしよう？私のセイ？心配しましたよ！！

2010年度 JIA 関東甲信越支部支部長挨拶



JIA 関東甲信越支部
支部長
上浪 寛

■この度の東日本大震災で犠牲になられた方には、深く哀悼の意を表しご冥福をお祈り申し上げます。また被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

昨年、支部長に就任して以来、はや1年が経ちました。就任当時から3つの大きな課題を担っての船出でした。その大きな課題とは、次年度にUIA 東京大会を控え開催地お膝元としての準備活動であり、新法人制度改革に伴う定款改定と新法人形態への移行問題であり、真の意味でのオープン化を目指す資格制度問題です。新法人制度改革に伴う新法人形態移行については、8月に全国各支部で開催された会員集会を経て、9月の理事会で審議・議決の上、10月のJIA九州大会で開催された臨時総会で公益社団法人を選択することが議決されました。その後、定款改定WGが主体となって作成し組織再編諮問会議により会長に答申された改定案が理事会に提示され、今年に入り4回に渡り理事会で協議・審議されています。資格制度については士会の専攻建築士制度とJIA登録建築家制度の統合に向けた協議が進められ、UIA 東京大会までに大筋合意することを目指しています。UIA 東京大会については支部主催で職能シンポジウムを連続5回開催し、全国支部での職能シンポジウム開催が展開される足がかりとなりました。特に第3回の「医師、弁護士、建築家」は全国支部長も参加し、職能シンポジウムを全国に展開する意義を確認してもらった良い機会となりました。夜の懇親会には当日開催されていたUIA 本部とJOBの調整会議の面々も参加し、約300名参加の盛んなパーティーとなりました。UIA 支部推進委員会の積極的な動きで、UIA 東京大会でのJIA 主催プログラムやツアープログラムが推進され、県地域会を含む支部地域会によるUIA 大会準備活動が軌道に乗り、今年に入り人的支援活動を本格化させる準備に取りかかりました。また、支部独自の改革として委員会組織再編に関する会議の場を設けました。9月から再編会議及び役員会で計7回に渡り議論を重ねた結果、2011年度より支部事業を受け持つ委員会をグループ毎に再構築し、情報、活動、財政面での連携を強化し効率化を目指していくことが3月の支部役員会で議決されました。賛助会員の皆様とは、5月25日の交流大会や支部役員会後に執行部との意見

交換会を開催しました。支部組織再編会議では、委員の半数以上が正会員でないと言う交流委員会の特殊性を鑑みて、委員会規程から外すため交流活動会議(仮称)を組織することに致しました。秋には毎年恒例のイベントが続きますが、10月JIA九州大会は丁度1年後開催予定のUIA 東京大会プレイベントとして、JIA25年賞受賞記念で谷口吉生氏による講演や、関東甲信越支部主催第4回職能シンポジウムが開催され、盛大な盛り上がりを見せた大会となりました。関東甲信越支部からは約160名に及ぶ参加者が数えられました。毎年恒例のアーキテクツ・ガーデンはJIA 本部と銀座INAX会場をコア会場として、10日間に渡る会期でUIA 東京大会300日前イベントとして開催いたしました。11月3日には建築家プレミアムオークションと題して、ネット上でオークションを企画いたしました。横文彦氏、安藤忠雄氏、をはじめとする15名の著名会員建築家からドローイング、リトグラフ、書籍、家具などの作品を出品品として寄付して頂きました。最終落札会をJIA 館会場で中継しながら楽しむという試みでライブ感を醸し出し、ほとんどの作品が落札されました。その他、フレンズカップ、地域サミットなど、支部恒例事業では滞りなく盛会で行われたことを付け加えておきます。年度末を迎え、様々な課題の総まとめをしていた矢先、3月11日に東日本大震災が襲ってきました。翌日は支部の最大イベントである保存大会が栃木県大谷で開催予定でした。準備を重ねていた栃木地域会の方々の意向を確認しようとしたが、夜になっても連絡が取れず、やむなく保存大会並びに地域サミット中止の決断をしました。東日本大震災は広範囲に渡り、復興には長い時間を要することが予想されます。震災当日より世界中のUIA 支部各国建築家協会から支援の申し出が来ており、世界中が日本の建築家の活動を注目しています。JIAでは全国JIA 会員の力を結集し、都道府県をまたいだ専門家チームによる支援活動を展開しています。災害対策委員会による被災地支援、復興計画提言特別委員会による復興計画提言など、JIA 会員並びに他会を含めた日本の建築家の力を結集して、日本の国難に対処するという決意を記して、挨拶の言葉にいたします。

《(株)構想建築設計研究所》

UIA 東京大会に向けて

幹事長
河村 大助



■今年度は、芦原会長の元、JIA 本部にとって公益法人への移行の決定、財務体質の健全化などの大きな課題を乗り越えてきた1年だったと思います。

この関東甲信越支部でもUIA 大会への支援金の支出、UIA 大会へ向けての連続シンポジウムの開催、支部委員会の再編などの課題について執行部をはじめとする会員方々の努力によりなんとか乗り越えてきたと思います。

しかし、残念ながらその年度末を迎えるこの3月に東日本大震災が発生しました、私が設計した建物もいくつか被災しました、特に震源近くの宮城県名取市にある建物は、残念ながら内装、設備が大きく被災し、現在でも使用できない状態になっています。

思い起こしますとこの建物を設計した時はあの1995年の阪神淡路大震災が発生した時に設計中であり、この建物は地震に対しては私なりに配慮して設計したことを記憶していますが、実際に被災した街そしてその建物を見ると自然の力に対する人間、そして設計者(私)の非力さを感じざるを得ない瞬間でした。

そんな中でもこの今年9月にはUIA 東京大会が開催されます、かつて大会の誘致活動で先輩方がご苦労されていた近くにおり、自分なりにUIA 大会の意味を学んできた私としては、この震災により内容も見直されると思いますが、是非大会を開催し成功させたいと思っています。

最近、私たち設計者は「自然、環境」という言葉をよく使います、主にポジティブな意味を持って、しかしそれが一転して人間に牙を向けてくるのも自然、環境です、うまく自然と付き合っていける「すべ」を今一度考える大会になればと思っています。

《NTT ファシリティーズ》

もっと会員(建築家)としての意見を

副幹事長
今井 均



■関東甲信越支部での役員はすでに卒業したと思っていたが4年前に当時の伊平支部長、現在の上浪支部長より副幹事長職を仰せつかった。振り返ってみるとどうもこれといった事も出来ず、むしろ四役という幹部の中にながら、時として反対の立ち場を役員会や会員集会場で述べるなど決して四役としては褒められた行動ではなかったという想いがのこる。しかし役員会での決議などがどこまで一般会員に理解されているのか、双方のギャップを感じていた事も事実で立ち場もわかまえず、これはと思うことには発言せずにはいらなかった。だから、その事についての後悔はない。もう既に亡くなった敬愛する会員の言葉であるが人の交流こそが大事である、ということより私はJIA 会員間での意見の交換こそ大切であると言いたい。その意味では役員会でも会員集会でももう少し一般会員(建築家)としての個人の想いを発言してほしいと思うのである。一方で支部長の伊平さん、上浪さんは少なからず側で見て来て大変なご苦労をされていると感じるのである。この状況の中で地域会のもつ意味は大変大きいと思う、その規模は様々だが私の所属する港地域会は常時出席者10名足らずだがこれが大変親密な会員間の交流をもっていて今後のJIA の発展の可能性を感じさせる。地域会の充実が今後活発な会員間の交流を促し、JIA という場を盛り上げてくれることに期待したい。

《(創建築アトリエ)》

次世代への枠組みを見定める時

副幹事長
堀越 英嗣



■建築をとりまく様々なことは3.11の大震災以前と以降で大きく変わってしまったように感じます。JIA に関しても、これまで改選の必要性を感じていた問題について、見直す時期に来たと思います。この一年、幾つかの会議に出席させて頂き、支部長、役員、関係の方々の熱い議論と積極的な活動に頭が下がると同時にこれまで続いていたあり方に対する見直し、次世代への枠組みを見定める時期が来ていると思います。UIA 東京大会においては、この大震災を経験した建築家としての反省と明日への提案がなされるべきだと思います。エコロジーを中心に据えた、個別分散化の方向性は加速されると考える中、JIA の組織としても益々、コミュニティに近い建築家の組織の役割を持つ支部、地域会の存在意義が問われることになると考えます。そんな中、これまでの組織のあり方を見直しが総務委員会のご尽力で進められた年でもあると思います。その中で幾つかの整理が行われ、私が関わる教育文化事業に関しては、学生や若手に対する教育分野に明確化されました。現在、会員の高齢化が進む中、次世代の若い建築家の参加が必須の状況となって来ています。本部における研究・教育委員会と歩調を合わせることでJIA が担うべき建築家教育について、対外的に分かりやすくする必要性を強く感じます。現在様々な見直しの中、JIA は社会から孤立した組織では無く、普通の人々の暮らす社会とともに歩む、コミュニティアーキテクトの活動体であるべきことを再確認した一年であったと思います。

《(株)堀越英嗣 ARCHITECT 5》

すべての人の心に花を

副支部長
西勝 郁郎



■ 沖縄県八重山地方の言い伝えに「ニライカナイ」という概念があり、人があの世に逝って数十年後に守護神に成るのだそうだ。厳しい自然と供に暮らす人々の美しい心がうかがえる気がします。

今回の東日本大震災では、被害にあわれた方や関係者へのお見舞いと供に、不幸にして亡くなられた方々へ心からご冥福をお祈り申し上げます。私も郷里の災害支援には、ささやかな義援行為とボランティア活動をしており、今後復興する「まちづくりや住環境」には改良の思想は不可欠だが、決して多くを望まずせめて八重山の言い伝えが信じられる普通の平安が一日も早く来る事を願うばかりです。

JIA 本部の財政は、待たなしの状態からどうにか来年度は脱却できそうな最低水準の会費改定が実施されます。しかし、今回の改定額は、通常外収入を除くと過去5年連続する毎年約2,000万円もの赤字を補填するのが目的で、委員会や全支部活動の財政的な改善は据置きです。一方、関東甲信越支部では、上浪支部長の新たなミッションである「支部組織再編検討会議」を通して、概ね委員会改革は実行段階に移行します。次年度の JIA は、本部・支部共に決して気の抜けない状況で、「会員総意で創る、定款改定」など新公益社団法人への対応を直前に、正念場の年となります。

UIA 東京大会や震災復興も含めてこんな時だからこそ、すべての人の心に希望と言う花を持ち、いつの日か花を咲かせようではありませんか。そして、花は厳しくとも自然に咲く野の花の様にありたい。

地域会と支部が
足腰の強い JIA を創る

副支部長
赤羽 吉人



■ 上浪新支部長体制下で1年経過しました。支部活動には殆ど新人同然の副支部長ですので、皆さんの足を引っ張らないようにとそればかりでした。

私の役割は主に県域を中心とする地域会からの意見を支部の意志決定に反映させ、地域会と支部の間の意志疎通をスムーズにすることにしたいと思います。東京から遠い地域からは支部の役割がなかなか見えないというジレンマを、どう払拭するかは実のところかなり難題です。

JIA 活動の原点が地域会活動にあるということは、言い換えれば地域社会において建築家の責務と役割がきちんと認められた状態を作り出すために努力することに他なりません。支部はそのためのサポートをする役割を担っているわけです。それが結果として足腰の強い JIA を生み出すことに繋がると考えています。

もう一つの私の役割として UIA 大会に向けての支部推進委員会活動を担当してきました。あと半年後に迫った大会開催に向けて支部内の足並みがほぼ揃った時点でこの大災害に遭遇しました。既に多くの活動チャンネルが災害復興支援に向けられています。JIA としては今後継続されるそれらの活動を社会との関わりの中で建築家の役割として捉え直し、それを市民と共に考え、社会に向けて投げかけていくことが JIA にとって大切な活動になると思います。

UIA 東京大会はその絶好の機会を提供してくれると考えています。JIA 会員として今こそ大会に参集しましょう。

＜(株) 林魏建築設計事務所＞

建築の力

副支部長
大澤 秀雄



■ 先日、宮城大学の T 先生と今回の大震災の被災地である気仙沼市、気仙沼湾の入り口に浮かぶ大島、そして南三陸町の歌津、志津川の両地区を視察して来ました。

皆さんが感じておられる通り、今回の震災は地震そのものよりもその後襲ってきた津波による被害の方が格段に大きいということを実感して来ました。地震によって被害を受けた建物がない訳ではありませんが、地震の規模の割には建物は良く耐えたと言って良いのではないかと思います。

しかし、津波には無力でした。軽い木造の建物は基礎から引き剥がされ流されてしまいました。鉄骨造の建物は鉄骨は辛うじて残ったものの外壁は破れ、無惨な姿を晒しています。RC の建物は大半は残りました。しかし、開口部から進入した海水が内部の造作、家具、家財を洗いざらい流し去ってしまいました。

被災地の街角に立っても、そこにこれまでどんな暮らしがあり、どんな文化があったのか、全く想像することすら出来ません。建築は人々の暮らしを守ることが出来なかったのです。

一方で、寄せ来る津波に耐え何百人もの命を救った建築があることも事実です。これから多くの建築家が復興計画に携わることになるでしょう。また、直接復興には関与しなくても、日々の設計活動の中に今回の教訓を活かして行くことは出来ます。

人々の暮らしを守り、豊かにするために、改めて我々建築家が力を発揮しなければならない時です。建築の力を信じて、頑張りましょう。

＜株式会社 三菱地所設計＞

総務委員会

委員長：西勝 郁郎



■ 今年度も、会員の入退会審査と予算管理対応を中心に、支部総会を始め会員集会や会員懇談会など重要な支部会議を企画準備し主催しました。中でも8月下旬には、本部理事会並びに諮問会議からの要請による「新法人形態選択と会費改定」をテーマとした会員集会を緊急開催しました。

また、毎年恒例の AG 建築祭では、新会員の作品とプロフィールのパネル展示を行い、新会員の集いでは、JIA のガイダンスなどを通して参加した新会員と懇親を深めました。

更に、上浪支部長初年度の新たなミッションである「支部組織再編検討会議」では、常任幹事会および全委員長と供に半年以上に渡り既存委員会の検証を継続的に協議し、委員会の「連携策および改善または廃止」など委員会改革案を策定し次年度実施に向け精力的な活動を行いました。

＜一級建築士事務所・西勝建築設計＞

アーバントリップ実行委員会

委員長：赤川 鉄哉



■ アーバントリップ実行委員会は1990年に発足し、約20年間にわたり合計60数回の見学会を開催してきました。当見学会は、アーバントリップというその名の通り、あるテーマに沿って複数個所の建物を横断的に見て廻るもので、単に実際の建物を見学するだけではなく、設計者や施主・施設運営者などから生の声を聞くことが特徴となっています。本年は合計3回実施し、それぞれ、オープンコンペ、教育施設の差異化、都市と大使館をテーマとしました。今でも、戸田市立芦原小学校で出会った子供たちの一点の曇りもない「こんには一」の一言が心に響いています。



第63回 立川市役所新庁舎 第64回 神奈川工科大学 KAIT 工房 第65回 インド大使館

建築セミナー実行委員会

委員長：高橋晶子 + 高橋寛



■ 昨年度の JIA 建築セミナーは8プロジェクトでフィールドトリップ、講演会、対談など月単位に2、3回行いました。心がけたことは、ON SITE (現場) の共有です。現場の気候・風土、文化・歴史的な背景、関わった人などすべてが建築家の思考に大きな影響を



塩尻市「えんばーく」見学会 (ワークステーション共同主宰：高橋晶子(武蔵野美術大学教授) + 高橋 寛)

JIA トーク実行委員会

委員長：猪野 忍



■ JIA トークは、1976 年来、日新工業、日本アスファルト防水工業協同組合の協賛を得て実施しております。最近約20年は、講演者を建築家以外の各分野で活躍されている専門家、芸術家の方たちにお願しいし、一般の人々も集い易く交流の機会となるよう企画してきました。今年度は、第一回ジャズベース奏者・金澤英明、コントラバス奏者・溝入敬三両氏の「ジャズのベースとクラシックのコントラバス / 異なる世界で生きる同じ楽器」、第二回写真家・新良太氏「地下構造物から最近の作品、仕事まで / 建築写真から写真の可能性を広げてみる」、第三回文化芸術研究者・アレックス カー氏「犬と鬼 / 日本の地方活性化



写真家・新良太氏 会場風景 (猪野建築設計)

学生デザイン実行委員会

委員長：石原 智也



■ 昨年度までは東京都学生卒業設計コンクールについてお伝えしてきましたが、支部全体の報告をしなればいけないことを私自身が認識することになり戸惑っております。早くは20年以上前から始まり、1都9県全ての地域で卒業設計コンクールが開催されていることは全国でも唯一の支部であること、若手建築家の育成におおいに寄与するものであることを各地域を代表してお伝えします。

＜NTT ファシリティーズ＞



第19回東京都学生卒業設計コンクール 同金賞受賞作品公開審査会場 「歌潮浮月-尾道活性化プロジェクト」

大学院修士設計展実行委員会

委員長：飯村 和道



■ 環境・建築系大学院の各専攻では、修士論文に替えて、修士設計の提出を認める専攻が漸増しております。そのため、当実行委員会では後進育成の事業の一環として、修士設計を支援する立場から、関東甲信越支部における「大学院修士設計展」を2003年より実施しております。本年度で第8回目を迎え、作品数も25点(15大学)と定着しつつあります。展示方法は、各大学院専攻より選ばれた優秀作品を JIA 関東甲信越支部のホームページに1年間掲載する方法を採っております。また、来年度から、毎年ごとのパンフレットの発行を予定して進めております。更に、第10回に向けて今までの作品を掲載した広報用小冊子の制作も計画しております。

＜女子美術大学＞

広報委員会

委員長：河村 大助



■ 2010年度事業報告

今年度は、芦原会長の元、公益法人化への移行の決定、それに伴う定款改定問題、財務体質の健全化などのJIAの大きな動きを広報してきたと共に、地域会、部会の活動もできるだけ会員の皆様へ広報するよう心がけてまいりました。

今年度の主な活動を報告します

- ・定期の委員会を1回/月開催し、Bulletin、HP（ホームページ）のワーキングをそれぞれ1回/月開催してまいりました。
 - ・広報誌「Bulletin」5冊、アニュアル号1冊を刊行いたしました。
 - ・HPは「Bulletin」のアーカイブとして利用していただくと共に、支部の活動をタイムリーにアップしてまいりました。
 - ・メールマガジンをできるだけタイムリーに逐次配信してまいりました。
- 最後に、今回の東日本大震災に被災された皆様に心からお見舞い申し上げますと共に、その災害支援、復興に向けてのJIAの活動を継続して広報してまいりますので、よろしくご協力願います。

〈NTTファシリティーズ〉

交流委員会

委員長：鈴木 敏彦



■ 交流委員会は正会員26名、賛助会員175社から構成され、「正会員と賛助会員との技術や情報の交流を通して相互研鑽し、建築技術ならびに建築物の質の向上・発展」を目的として、賛助会員の業種毎に編成されたグループ活動と、それを基盤とした全体活動を行っています。具体的には、AGのオープニングセミナー、賛助会員企業による研修会（建築相談委員会との共催）、フレンズカップ大会、賛助会員名簿の発行・HP編集等の広報、グループ主催のセミナー・施設見学会・ゴルフコンペなど様々な活動を通年で行っています。支部財政に大きく貢献している賛助会員制度への正会員の皆様のご理解を賜ると共に、2011年度には支部直属機関として組織変えとなる本委員会の活動へ、正会員、賛助会員の皆様の多数の参加をお待ちしております。

〈大建設計〉

建築相談委員会

委員長：青野 達司



■ 昨年度関東甲信越支部にある5カ所の建築相談室で合計429件の相談を受け、62件の現地調査に相談員を紹介しました。インターネット上の当委員会のサイト「住宅相談室」は創設後2年が経過し、相談事例の蓄積が18件になりました。アーキテツガーデンでは例年のように相談室を開き、パネル展示のほか、「マイホームは「やすらぎ空間」ですか?」のテーマでパネルディスカッションを行いました。研修会を「木造住宅」「基礎・地盤」「防水・塗装」「建賠」のテーマで行いました。これは相談員以外からの参加を視野に入れ、交流委員会との共催で行い、また賛助会員のご協力を頂きました。「建賠」についてはWEB配信が行われ他支部からの参加者もありました。残念ながら5回目の研修会「換気と結露」は震災の影響で中止になりました。

〈青野設計事務所〉

保存問題委員会

前委員長：和田 昇三



■ 自分自身の問題として

5年前初めて委員会に出席した時のことが強く印象に残っている。建物の保存を設計と同様に創造行為と認識しているのであろう。委員会では保存の問題が、自分自身の問題として真剣かつ熱心に意見が交わされていた。これほど真面目に議論する会議は初めてと感じたが、今でもその思いに変わりはない。

今「想定外の地震」による原発事故が日本中を不安に陥れている。原発の安全性を云われるまま受入れてきた国民にも責任の一端が無いとは言えない。原発を含めエネルギー問題は喫緊の課題である。人類の歴史に禍根を残さないためにも、国民一人ひとりが自分自身の問題として捉え、徹底的に話し合い「持続可能な社会」が築かれてゆくことを祈念している。

〈東利工業大学〉

支部建築家資格制度委員会

委員長：野生司 義光



■ 2010年度から更新申請も、これまでの年2回（10月と3月）から1回となり、3月に新規申請並びに更新申請、再登録申請について、委員会を開催して提出書類審査及び更新要件の確認と、支部認定評議会（議長：佐々木群）に向けての資料整備を行う。その結果、新規申請者5名のうち4名の確定と1名本部審査依頼を行うとともに、更新予定者248名のうち、188名と、再登録者8名については、何れも更新要件を満たしており、支部認定評議会より本部認定評議会に報告。しかしながら、更新者予定者のうち、43名は、いくつかの基準を満たしていないため、それぞれの更新手続き期限までに更新要件を満たし、かつ更新手続きがなされたものは、支部建築家資格制度委員会が確認の上、更新を認めるものとし、本部認定評議会に報告書の提出を行いました。

〈(株) 野生司環境設計〉

アーキテツ・ガーデン 実行委員会

委員長：柳 学



■ アーキテツガーデン 2010

「デザインという未来 UIA2011 東京大会プレイベント」として10月27日～30日に建築家会館と建築家クラブで、翌週11月1日～5日はINAX銀座で開催しました。

建築家会館、建築家クラブでは、各地域会、部会の活動展示パネルや、住宅部会の模型展示、セミナー等を行いました。INAXでは美術展、メモ展、写真倶楽部他を展示しました。

「建築家プレミアムオークション」を初めて開催。横文彦氏、安藤忠雄氏、谷口吉生氏、山本理顕氏、隈研吾氏、妹島和世氏等々からドロイングや作品集、椅子などを寄付して頂きオークションを行い、売上げから45万円を寄付しました。アーキテツガーデンの目的の一つである建築家と市民をつなぐ役割が果たせたこと、そしてわずかですがUIA東京大会に寄付できたことで、今後繋がるイベントになったと思います。

〈柳学アーキテツ〉

顧客支援システム委員会

委員長：松永 基



■ 顧客支援システム委員会はWEB上のアーキテツファイルを運営しています。2011年3月末現在、アーキテツファイルの登録者は51名となりました。昨年より、住宅だけでなく5部門、住宅系、商業・生産系、保存・リノベーション系、公共・教育・福祉系、まちづくり系と拡大しました。

一般市民と建築家を結ぶサイトとして2007年に開設しましたHPも2010年度秋にはトップページをリニューアルしました。月間アクセス数は100件程度ですが、その後実際に家を建てたいとの顧客からの問い合わせが2件、一般的な問い合わせも2件で問い合わせ件数は確実に増加しています。一方では財政を黒字にするべく努力もしています。今後は財政面でも黒字に転換します。今後とも市民の為、良い建築を作る為に建築家と市民の出会いの場としてより一層努力していきたいと思っております。

〈エムズワークス一級建築士事務所〉

UIA 東京大会支部推進委員会

委員長：赤羽 吉人



■ 最後の上り坂で山頂が消えた?

遅々とした歩みではあったが、山頂を目指して一歩一歩足を運んだ結果、大会開催に向けて支部内の足並みが揃ったことは大きな成果だった。具体的活動としては、連続シンポジウム4回開催（次回以降はJIA本部事業に移行）、大会情報要約版「JIA版大会インフォメーション」作成配布2回、支部内ツアー・街歩き提供11地域会、支部からの大会参加登録者数540名、支部からの寄付金・支援金達成率54%等々。

UIA/JOB イベントへの参加協力要請に対する人的協力体制構築に取りかかった時点で3月11日の大震災により、大会そのものの存続が危ぶまれたが、規模、テーマ設定、運営方法を全面的に改め、全く新たな大会として再スタートするためのアイドリングを開始した。

〈(株) 林魏建築設計事務所〉

JIA 関東甲信越支部事務局



菊地 良一（事務局長）

2010年は、法人形態の在り方や、組織再編の検討、2011UIA大会・東京開催に向けての推進など様々な活動の展開が図られ、2011年に向けて、さらなる展開を図る矢先、3月に未曾有の大地震が発生し、内外に多大な衝撃を与えました。こうした中、建築家が社会に果たすべき役割や存在意義を高め、的確な対応や、正確な情報発信が2011年は更に求められてくると思われまます。支部事務局も新しい職員が入り、新たな息吹のもと各活動のサポートを図るとともに、限られた時間ではありますが、次の世代（職員）に引き継ぎができるように頑張りたいと思っております。



清宮 美津江

とにかく楽しい支部事務局です。新人、美女2人を迎え、今までにないような、和気あいあいとしたアットホームな雰囲気です。そんな様子を見に来てみませんか！



青木 絵里

JIAに入社して1年が経ちました。今年はUIA東京大会が開催されます。皆様のお役に立てる様、尽力してまいりますので、よろしく願いたします。

■ 委員会一覧（2010年度）

● 総務委員会	委員長：西勝郁郎
● アーバントリップ実行委員会	委員長：赤川鉄哉
● 建築セミナー実行委員会	委員長：高橋晶子 + 高橋寛
● JIA トーク実行委員会	委員長：猪野忍
● 学生デザイン実行委員会	委員長：石原智也
● 大学院修士設計展実行委員会	委員長：飯村和道
● 広報委員会	委員長：河村大助
・ Bulletin 編集 WG	編集長：湯浅剛
・ ホームページ WG	主査：中澤克秀
● 交流委員会	委員長：鈴木敏彦
● 建築相談委員会	委員長：青野達司
・ 対市民建築相談室	
● 保存問題委員会	委員長：和田昇三
● 苦情対応委員会	委員長：石原直次
● 支部建築家資格制度委員会	委員長：野生司義光
● アーキテツ・ガーデン実行委員会	委員長：柳学
● 顧客支援システム委員会	委員長：松永基
● UIA 東京大会支部推進委員会	委員長：赤羽吉人

JIA 神奈川地域会

代表：森岡 茂夫



■ 地域のちから
2010年度は「地域のちから 地域会のちから」をテーマに活動を行いました。JIAは設立24年目を迎えて、地域会の活動が大変活発になっています。地域主権を目指す国の仕組みと同じように、JIAは本部主導から地域会の活動が主体となるべきときがきているのではないのでしょうか。神奈川県では2010年度の活動方針として、ひとりでも多くの会員が活動に参加し、地域会のちからとなることを提案しました。その大きな成果のひとつが、逗子市の第一運動公園プロポーザルコンペのアドバイザーとして神奈川県が参加できたことです。アドバイザーとして、応募要項の作成、審査員の推薦、審査方法の提案を行いました。設計者が選ばれた後も、市民を交えた検討委員会に行政のアドバイザーとして参加しています。そのことが逗子市長や市民から大きな信頼を得て、2011年度も引き続き設計者選定やまちづくりアドバイザーとして参加することが決まりました。



逗子市運動公園プロポーザルコンペ最優秀案

地域のまちづくりに市民と行政の間で専門家として関与することは、これからの地域会の大きなテーマのひとつになっていくと考えています。

(アルフィ建築デザイン)

JIA 千葉地域会

代表：櫻井 修



■ 他団体との連携で大きな成果
東日本大震災により被災した方々へ心よりお見舞い申し上げます。本県でも旭市の依頼を受け、会員14名による「建物応急危険度判定」が行われました。今後も調査・相談業務に協力する所存です。各業務は単一会では効率を欠くことから、県建築設計関連6団体と連携し情報の集約・相談窓口の一本化を協議しています。会の目標である、会員職能の市民認知、業務環境の改善は、本年度も単独あるいは他団体と連携して具体的な活動が展開されました。その内、学生賞は23回を迎え、併設の「千葉県建築展」は6団体合同の会員展として多様な活動発表の場となりました。業務環境の改善の一環として、県「業務報酬・入札及び契約制度の改正」に伴い、それらを推進すべく県との意見交換が継続的に行われています。他団体との連携を通し単一会では成し得ない幅広い・奥行きのある情報収集・資料作成・活動となっています。今後もこうした状況が進展する一方、当



6団体合同「千葉県建築展」

会の課題である会員構成の明確化、事務処理機能の強化、運営費の確保等は本部の定款改正状況を注視し方向付したいと存じます。

(桑田建築設計事務所)

JIA 埼玉地域会

代表：三浦 清史



■ 地域会が地域に根ざした活動をしてゆく時に二つの方法があると思う。一つの道は主体的に企画立案をして地域に働きかけてゆく、もう一つは既に活動しているところに積極的に参加して仲間入りをしてゆく方法である。僕たちは後者の道を選んだ。既にさまざまな立場で活動する他団体と協働し、その成果を糧とし、これから、地域会をそうした活動のプラットフォームとし成長させるのだ。夭折した立原道造の夢を継承する風信子荘(ヒアシンスハウス)が浦和の別所沼公園に完成して6年が経った。水曜日の開室は僕たちの担当だ。

風信子荘をきっかけに埼玉県立近代美術館が主導するアートを愛する県民のネットワークづくりがSMFである。僕たちも参加し人間市博物館で「方丈庵」を発表したことは5月号で紹介した。文化芸術基本法の中では曖昧な立場にある建築を文化として位置づけるためにも、この連携は深めよう。

地域での仕事はまだまだある。埼玉建築設計監理協会の卒業設計コンクールにはJIA賞を提供し、建築学会埼玉支所が主催する埼玉住まい・まちづくり交流展にも参加する。川島町の地域子供教室ではワークショップの技術指導、他県だが、新木場の若手材木商たちが活躍する新木場木まつりでは、講師に内田祥哉さん、坂本功さん、三井所清典さんと呼びセミナーの企画を立案した。

(こうだ建築設計事務所)

JIA 茨城地域会

代表：天 茂彦



■ 茨城地域会の活動理念としまして、「創造行為」「公正中立」「たゆみない研鑽」「倫理の堅持」に基づき建築を通じて「美しく魅力的な都市環境の形成」と地域の「文化価値の創造」を目的としています。月1回の例会では、会員が取り組んでいることの情報交換と情報発信の場所となっており、会員の建築に対する情熱ある提案は建築士の職能の改革につながっていると思います。自ら考え、自ら行動することは簡単なことではないように思える今日ですが、ひとりひとりの自覚ある行動が確かな結果となり、それは建築家の成長と発展となることと期待しています。

第4回目を迎えた「茨城の建築家展」では、「建築・建築家が地域社会にできること」をサブタイトルとし、建築家としての活動を多くの方々に知って頂くために出展建築家とのディスカッション、アーティストによるミニコンサートや講演会を企画し、幅広い交流の輪を広げることで建築という奥深い魅力を共感することが出来ました。地域の方々とのコミュニケーションを作り、少しずつでも理解して頂けることで建築としての豊かな環境づくりに一歩近づきかけになったのではないかと感じています。そして、このきっかけを活性として街を動かす社会活動としていきたいと思っています。

さまざまな領域と交流し、建築家からの影響を受けることで起こるエネルギーを茨城地域会の活動基本と考えています。

(天建築設計事務所)

JIA 栃木クラブ

代表：藤原 宏史



執筆者：(本年度代表)慶野 正司

■ 学生を交えた一貫的な活動
本年度から地域会代表を務めさせていただきます慶野です。宜しくお願いいたします。栃木地域会は20名に満たない小規模な地域会ですが、本年度18回目を迎える「スクールin栃木」(宿泊見学研修会)、28回目の「JIA 栃木クラブ賞」(卒業制作賞)など建築を志す学生達の知恵と意識の高揚を図りつつ会員と共に研鑽するという一貫した理念で活動しております。さて本年度は、前記の通りの恒例事業を始め、昨年度誠に残念ながら開催前日に中止せざるを得なかった「JIA 保存問題栃木大会」の開催を目指して活動してまいります。ここでは昨年実施した事業から「第17回スクールin栃木」をご報告いたします。街のメインストリートに陶器店が連なり路地裏には工房やギャラリーなども面的な広がりを見せている正に「やきものの街」をステージとし、「やきものの街・益子を訪ねて」をテーマに開催しました。朝夕肌寒くなってきた10月下旬に学生及び会員33名の参加のもと、まずは人間国宝・濱田庄司氏自邸を開放した「益子参考館」、内藤廣氏設計の「フォレスト益子」の見学の後は、グループに分かれて「街歩き【見る】」プログラムです。宿泊所「芳賀青年の家」に移動してからは、陶壁作家の藤原郁三氏の講話【聞く】をいただき、後は夜通し翌日解散までワークショップ形式のグループディスカッション【話す】です。まあ例年の事ですが会員・学生・先生入り混じっての本音ディスカッションは、視点や展開が実におもしろいですね。

(有)アトリ工慶野正司 一級建築士事務所

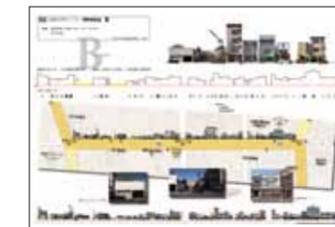
JIA 群馬地域会

代表：神澤 宣次



■ 「地域の街なみ」を思う
群馬地域会・まちづくり委員会は身近な言葉、「街なみ」について考えてきました。とりわけ、私たちが活動する地域にとって、美しい街なみとは何か、その評価基準はどんな処にあるのかを考えて来ました。今まで、「街の色」がテーマの見学会、鉄道沿線に限定した街など、意識的にテーマを付けて実施しました。人間の顔を様々な基準で分類するのと同様に、街なみはその数だけ、固有の個性を持ち、分類さえも、難しい問題であることがわかりました。ましてや、良い、美しい街なみを論ずることは、途方もなく大変なことであることが分かります。しかし、街並みの構成に最も影響力を持つ建築に関わる、私達にとって、地域の町並みを評価する方法を模索する必要があると考えます。遠い道のりですが、少しずつ前進したいと思います。

(執筆者：(株)松本金弥建築計画事務所 松本金弥)



高崎市内の街なみイメージ



昨年11月に実施した、わたらせ渓谷鉄道沿線の大間町見学

JIA 山梨クラブ

代表：長田 孝三



■ 2002年から始めた山梨県高校生卒業設計コンクールも、今年で10年目を迎えます。山梨県には建築学科のある大学・専門学校がなく、高校3校参加によるコンクールですが、指導する先生や作品等にも年度ごとのばらつきがあり、1校しか参加できない年もあります。2月末に会員4名で行った審査会で、昨年度は3名が入賞しました。今年度は初の試みで生徒のプレゼンも行い、会員審査員との質疑応答や意見交換も行いました。和やかな雰囲気の中、緊張した空気が流れた時間でした。審査会の後、前年度入賞者の表彰式や受賞者との懇談会も行ないました。また、地域自治会おしかり防災講座「地震に強いまちづくり・家づくり」を前年度より多い5会場にて行いました。ほとんどの県域が東海地震に係る地震防災強化地域に指定されている山梨県ですが、住宅の耐震化率は2008年で74%と、全国平均79%より低い現状から少しでも耐震化促進の力になればと行っています。これまでは甲府市内のみでしたが、今年度は会員のいない静岡県境地域での開催も計画しています。



卒評審査風景

促進の力になればと行っています。これまでは甲府市内のみでしたが、今年度は会員のいない静岡県境地域での開催も計画しています。

(株)イズ

JIA 長野県クラブ

代表：赤羽 吉人



■ 地域社会と共にある JIA 活動
JIA 長野県クラブの構成員は正会員66名、賛助会員58社。総務・広報・出版・会員・事業・まちづくりの6常設委員会とUIA大会準備特別委員会が活動母体。地域会活動の主眼は地域社会への情報発信です。昨年12月「信州の建築家とつくる家」第7集を発売。会報の発行は年4回、H.Pの充実にも取り組んでいます。卒業設計コンクールと会員作品展開催。講演会は震災のため中止。会員の研鑽と交流を兼ねて研修会や見学会、技術交流会、先輩会員と若手との交流集会、UIA大会に向けてのシンポジウムや街並みウォッチングを実施。建物の保存要望活動にも取り組んでいます。CPDプログラムを提供、全会員36単位取得を目指しています。長野県北部地震では25名の会員が栄村災害支援活動に従事しました。他会と共同での地域活動です。

(株)林魏建築設計事務所



軽井沢町でのレーモンド作品見学会風景



長野県学生卒業設計コンクール審査風景

FORUM

FORUM

JIA新潟地域会

代表：塚本 久志



■ 新潟地域会は若い会員も増え28名となり、又、本年度から賛助会も新設され活動基盤は整備されつつあります。相互交流を深め地域への貢献を通してJIAの地域での認知度を高めていきたい。月例会では情報交換や活動報告、事業運営の決定を行っている。

毎年行っている事業として

- 春には県内4大学による卒業設計コンクールを開催した。今回は審査員に井口 浩氏、伊藤支部長、長野、群馬地域会委員を迎えて行った。12回目のコンクールとなるが、学生達はJIAの全国大会出場を目標として頑張っています。
- 秋には第12回建築セミナーにJIA新人賞の五十嵐 淳さんを迎え講演を行った。
- 2月には第6回JIA北関東甲信越「学生課題設計コンクール」新潟県内発表会を行った。選抜された作品は群馬大会出品予定でしたが、大震災の為中止となりました。今年から新たに高校生の参加もあり熱気ある発表会でした。

今年から行ったNHKカルチャー建築セミナーは、一般市民へ向け新潟の建築文化の紹介として講演と見学会を行った。



卒業設計

〈DESIGN空〉

JIA三多摩地域会

代表：高田 典夫



■ 三多摩の街と建築を考える

本年度の活動としては、武蔵野市立小学校や東大和市中央公民館で例年行なっている空間ワークショップに加え、自主企画として実践女子大学学園祭でも空間ワークショップを実施し、延べ250名の子供たちが参加をすとともに、各地域会からの協力も得て、延べ39名の建築家がファシリテーターとして、サポートスタッフとして大学院生・大学生が延べ37名も参加して、地域との連携をはかる主たる活動となってきた。また、当地域会としてはじめて企画・実施した「三多摩地域会展」は、会員8名の作品展示や活動報告に加え、地域で活動している協力団体からの展示も行い、延べ80名を超える見学者を集めた。

会員個人の活動にくわえて、地域会としてのこれらの活動を通して、これからも地域とともに三多摩の街と建築を考えていきたい。



実践女子大学での空間ワークショップ



三多摩地域会展

〈アトリエテン・実践女子大学〉

JIA中野地域会

代表：小西 敏正



■ 中野地域会は、2010年度、八重、仰高、落合、千川、桜野小学校での空間WGに参加した。猛暑が続く9月地域会員並びに中野区民を対象に「ゲゲゲ?のバスツアー」を行った。参加者37名で、東京たてもの園、深大寺、サントリー武蔵野ビール工場を見学した。今年も会員以外の参加者に喜んで頂けた。恒例の秋の中野まつりに参加し、「木についての討論会(ゲゲゲの木だろ?)」を行った。また、11月22日「(仮称)中野地区まちづくり条例に関する意見書」を中野区都市整備部長宛に提出した。12月の定例会で中野区建築分野副参事(=課長)から条例の説明を聞き質疑を行った。条例についてパブリックコメントも提出したが、地域会の意見に対して一部配慮がなされた。年末には中野地域会が幹事となり中野・杉並・三多摩の三地域合同忘年会を行った。今年に入り中野耐震改修促進協議会による「1.17フォーラム」に参加し耐震改修のパネルを展示した。この他、駒沢給水塔風景資産保存会の野方配水棟等スタディーツアーへの参加、中野まつり実行委員会への意見書提出などを行っている。



東京たてもの園

〈建築環境デザイン研究所524〉

JIA杉並地域会

代表：遠藤 勝勲



■ 活動報告2010

杉並地域会の活動で中心に位置するのは、「杉並土曜学校」です。3年目となる2010年度は通年テーマを、「杉並からエコを考える」とし、「杉並のエコスクール化—モデル校の今」、「杉並の微気候—水辺と緑がつくる心地よさ—」、「木材とエコロジー—木の家がエコな理由—」、「エコハウスを考える—環境省モデル事業レポート—」、「未来の地域交通—エコで快適な移動とは—」という内容で、全5回開催いたしました。また、助成金を頂き、ここ3年間の講座の内容を小冊子にまとめることができましたのは、大きな成果であると思います。

毎年恒例の「杉並アーバントリップ」では、金沢を訪ね、石川地域会との交流と古今の建築作品や街並の視察をいたしました。これらの活動は、今後も引き続き行ってまいります。



土曜学校の記録



金沢工業大学・建築アーカイブス

〈遠藤勝勲建築設計室〉

JIA新宿地域会

代表：菊地 守



■ 3年目に入った「Aゼミ」ですが、今年は「都市」を3回の共通テーマとして、建築家クラブにて実施しました。

- 第10回：6/24：渡邊研司(東海大学工学部専任准教授)「火星団(MARS Group)による超モダン都市ロンドンへの再建」
- 第11回：9/1：矢代眞己(日本大学短期大学部建築学科准教授)「オランダの集合住宅百年史 アムステルダム VS ロッテルダム」多様と統一の共存をめざした多元的な試みの軌跡
- 第12回：10/27：堀内正昭(昭和女子大学大学院教授)「ベルリンの建築—再生される都市—」

■ 「景観セミナー」の2回目として、今年は中央・港・新宿区の三区の関係者をお招きして「外堀景観セミナー」(於建築家クラブ)を実施しました。ビデオ上映の後、千代田区(後藤氏、小藤氏)新宿区(志原氏)講師三氏のお話を伺いました。

■ 「新宿を知ろう」の第5回は、11月16日、長年神楽坂のまちづくりに携わっている会員の山下氏にお願いして、神楽坂の界隈を訪ねました。

その後、「神楽坂連続路地シンポジウム」「谷中・神楽坂懇親会」にも参加させていただきました。



〈アーキタイプ建築設計事務所〉

JIA文京地域会

代表：野生司 義光



■ 文京建築会としての活動

JIA文京地域会と東京建築士会、二会で毎月合同にて例会を、第二月曜日に行っている。又、東京都建築士事務所協会文京支部とも各イベントごとに三会合同でイベントを共催し活動をしている。

■ 安心・安全マップ「文京ブルーマップ」の発行(2010.10出版)

防防災という観点から、会員自らが、文京区内を歩き、安心で安全な空間やコミュニティーを探し出し、文京環境マップ「ブルーマップ」として出版した。

■ 文京見どころ・絵はがき大賞

文京区には、数多くの、「美しい自然景観」や「優れた都市景観」が存在します。また、祭りやイベントなど「楽しい出来事」もいっぱいあります。さらには、たくさんの「魅了区的な人々」も暮らしています。昔から「絵はがき」は、地域の名所・旧跡をはじめとして、さまざまな地域自慢を紹介するひとつの手段として有効な働きをしてきました。この企画は、老若男女・プロアマを問わず、魅力的な文京区を紹介する「手作り絵はがき」を応募して頂き、その中から優れた作品を表彰するものです。「手作り絵はがき」作成運動はこうした時代の傾向を再検討すると同時に、「文の京」である文京区の地域活性化や区民意識の向上に役立つ事業として位置づけています。展覧会には、昔の文京絵はがき展も同時開催致します。

■ 講演会

2010年11月に、文京建築会(三会合同)と文京区共催で、下記の講演会を、文京シビックセンター・スカイホールで行った。演題「ものづくり・ことづくり/東京ドーム・PURADAなど」講演者 村松映一(元竹中工務店副社長・文京建築会会員)



〈(株)野生司環境設計〉

JIA城東地域会

代表：伊藤 政広



■ 3.11三陸沖の暴れん坊大なまづに触れない訳にはなりません。翌日の地域サミットは中止、直後の例会も中止、あの経験もなかった大地の揺れが、私たちの活動の蓄積の何もかもはこの程度の軽きものとあざ笑ひ吹き飛ばしたのです。都市生活の日常での自然は街路樹や公園の緑、せいぜいそんなものは自然でもなく人が作った空間の添え物であって、その真下の大地と地球の鼓動の存在を大なまづは私たちに知らしめました。「いや知っていたんですよ、忘れていて申し訳ありません。もうこれからは忘れません。」・「ほんとにお前ら!」・「太陽系の青い球体の表面で生物圏のルールを守りますからもう少し生き長らえさせて下さい。」

城東地域は関東大震災と下町大空襲の惨禍から復興してきた街です。城東地域会では「災害と復興」はいつもの課題です。私たちはいつもの活動を続けます。私たちのかけがえのない、いつもの街と人の中で・・・。



南砂子ども空間 WS

〈交建設計〉

JIA渋谷地域会

代表：三井所 清典



■ 渋谷地域会では、UIA2011東京大会に企画参加することを決定しました。地域会発足以来、「渋谷を知る 仲間を知る」のテーマの下に渋谷区内の様々な場所で街歩きをやってきましたが、海外からのUIA参加者向けに、渋谷の街の特徴を多く含んだコースを設定し、「渋谷探索トレッキング Shibuya Discovery Trekking」というウォーキングツアーとして企画しました。6月例会では、実際にコースを歩いて内容を吟味しました。会員はよく知っている場所・コースですが、早い時期に実際に歩いて検証することで、認識を新たにしたり対応を再考したりするなど、より充実した内容とすることができました。さらに、海外から訪れる参加者にも説明・案内できる知識や情報を得るため、2月例会では、コース途中にある明治神宮を調査参詣しました。神楽殿での巫女による神楽「倭舞」を奉奏しての参拝でしたが、内拝殿での正式参拝という稀有な体験もしています。また、昨年開設したホームページの充実も図りました。前述の渋谷探索トレッキングのコースも「渋谷トレッキング」として紹介しています。ホームページでは、コース概要・写真や地図・コメントの他に高低差の情報を入れるなど、街歩きのガイドとしても役立つ内容にしており、コースも増やしてゆく予定です。4月には英語版も公開しました。

〈レーモンド設計事務所〉

JIA 世田谷地域会

代表：小林 正美



■ 昨年まで、メインの活動であった「世田谷区庁舎問題」が、逼迫した世田谷区財政により動きを弱めたため、地域会の活動も比較的に穏やかな活動となりました。昨年度の活動の中心はUIA大会において世田谷地域会として「世界の建築家達」に世田谷の代表的住宅地であり、その成り立ちが際立って違う「下北沢」と「成城」をご案内すべく地域会ツアーの準備を進めてきましたが、東日本大震災の影響によるUIA大会のテーマ調整を考慮して、先日総会で中止を決定いたしました。今年度は市民派の新区長が誕生したことから、どうしても「区庁舎問題」で対立軸の展開とならざるを得なかった区との関係を、協調路線に移行する活動を進めていきたいと考えています。特に今回の震災で実際に避難所となった区立学校での避難訓練に参加して、避難所の実態把握を行い、地域の建築家として都市防災へのかかわりを考察する機会を設け、「世田谷区安心・安全協議会」への継続参加、区内小学校での「空間ワークショップ」の開催とその活動を教育委員会に広める活動。世田谷区の休暇村である「川場村生品宿 景観再生」への協力、小田急線地下化にともなう「鉄道敷 跡地利用問題」への参加などを活動の中心に据え、全地域会員35名がアクティブに活動できる場を設けてゆくことに取り組みたいと考えています。

〈アルキメディア〉

JIA 中央地域会

代表：長谷川 順持



■ 中央地域会では、中央区に所在する建築家すべての「情報受信、情報発信基地」になることを目標とし、本年は中央地域会ブログサイトの充実をしています。会員が関係しているイベント関係を随時アップしています。会員は「オープンアーキテクチャー」「建築家住宅の会」等各種活動を展開していますので、それらの活動をこのブログで情報発信しています。また、今年も「たべる」シリーズを継続して、「築地をたべる」では生田興克氏をお招きし、「たまらねえ場所 築地魚河岸」という演目で、日本の貴重な食文化についてお話を頂きました。また、少し越境して、浅草にあるアミュージムミュージアムにて、牧野健太郎氏に浮世絵の魅力を語っていただきました。本年は会員の作品集を出版する企画を進めています。各会員がどのような活動をしているのかについて、中央区の街づくりのなかまたちとどのように協働しているかに視点をあてて紹介することを目的としています。吉田不曇副区長の文章も頂き、今夏には出版する予定です。今回の震災関係では、長谷川順持代表が、震災復興住宅プロジェクトを早々に立ち上げています。ここでは、この震災復興への応急住宅を「仮設住宅」と呼ぶことをやめ「被災者住宅」と位置づけて、その中身を生活者側の事情にあわせて三つに分解しています。その中で中長期の生活には問題がおこる危険性が高いといえるタイプを取り扱う中心テーマにしています。詳しくは中央地域会ブログを参照してください。

〈事務局藤沼保〉

JIA 千代田地域会

代表：赤堀 忍



■ 2010年度事業報告

地域会活動の一つに建築の存続がある。昨年度に要望書を出した博報堂日本館について、博報堂から「博報堂日本館記録保存調査報告書」(清水建設・文化財保存計画協賛)を寄贈され、建築家サロン・千代田地域会が各1部を保管している。旧お茶の水スクエア及びカザルスホール、赤坂プリンス、法政大学については支部長・保存問題委員長・千代田地域会代表連名で保存要望書を提出。赤坂プリンスはUIA・JIA会長連名で共同声明を発表した。

三菱倉庫トランクルームトリセ・フランコ・ジャポネ・ドゥ・東京(復興東京柳北小学校)の見学会を開催。景観研究の継続の成果として、昨年度調査した淡路町の調査報告書を支部の助成を得て、出版準備中。

8月に区の後援を得て、区民ホールで学生卒業展を開催、10月に建築模型展をA-Archiビルを中心に数か所で開催。

区との連携は区民集会の協力団体として参加や、代表が区役所で講演した。地域防災活動は、まちづくり推進部・文化財課・防災課を交えて検討を重ねている。東京都防災ボランティアの登録会員は5名。「住まいのクリニックセミナー～地震に自信を in 千代田II」を区の後援を得て、エンジン01と共催。

最後に、地域会の半纏の制作し、九州大会でお披露目した。



〈芝浦工業大学〉

JIA 城南地域会

代表：松本 裕



■ この度、大震災の状況は日々テレビや新聞等で報道されておりますが、被災地に関わる地域会の皆様には謹んで心よりお見舞い申し上げます。

私ども城南地域会は設立以来4年が過ぎ、この間、月例会、アーバントリップ、地域散歩、川奈キャンプ合宿、ふれあいフォーラム等活動を続けてまいりました。一方、例会は常時14、5名の出席のもとに、私どもの家協会の共通認識であるべき職能の基本について忌憚のない意見交換と、事態によっては現執行部に対し率直に意見を申し出ております。

当地域会は北は目黒川、南は多摩川、東は東京湾、西は目黒区に接した品川、太田両区に関わる人口100万人を超える広範囲なエリアです。当地域会は本来の目的である両区行政や地域市民との積極的な交流を基に地域主権を認識し合った安心、安全なまちづくりの活動を目指しておりますが、なかなか成果が乏しい現状に苦慮しております。「まちづくり」とは甚だおこがましい言い方ですが、地域会が何代にも亘り地道な活動を継承してこそ、市民から家協会が目指す職能が理解していただけるものと信じて活動しております。この度の震災についても、この機会に被災地に関わる地域会の皆様には是非地域主権による素晴らしい復興計画マスタープランを作成してほしいと切に願っております。

〈松本建築設計事務所〉

JIA 城北地域会

代表：松本 哲夫



■ 2010年度の地域会活動を端的に表せば「会員にとって情報収集と研鑽の一年」でした。地域会の活動が地域の市民や行政との協働であることを一つの目標としていますが、行政の域を超えた各地域での情報収集こそが、各行政区での彼らとの協働につながると考えています。また、各自の研鑽が地域での建築家の役割を担うことに資すると考えています。

■ 4月の総会にあわせた講演会は、新幹線700系のデザイン開発を通して環境指向の造形と将来への可能性についての講演でした。7月のまち歩きでは城南住宅地区と常盤台地区の2つの街を同日に見学し、両地区で活動されている方々と内包する問題点や将来への展望等について議論しました。秋のAGでの展示などは地域に深く関わっている者こそその発信であり、年が明けてからの林秀司さんや泉幸甫さんの講演は永年の、建築家としての地域での活動や作品へのこだわりを伺う機会でした。



まち歩き(城南住宅地区にて)

子供達への空間WSの活動は城北地域会で開催したものや他地域会へのサポートを通じて、子供達へ何を伝えることができるのかの試行錯誤を繰り返しています。最後に、地域会HPを公開できたことも報告に付け加えておきます。

〈鈴木和貴/PAX建築計画事務所〉

JIA 港地域会

代表：大倉 富美雄



■ 都心に在ってこそ出来ることをやる

MAS(当地域会セミナー)の開催。野老会員が日大川教授と、遺産の多い港区の過去と未来を読んだ。

キーワードを「起承転結」とし、エドワード・レルフ、前野まさるなどを引用、内なる目と外部からの目から江戸の成り立ちを説き、それが遺産として受け継がれ、中世都市から近代都市へ変貌を遂げたが、6回も変身していることを紹介。コルビジエのポアザン計画に対して、J.ジェイコブスが都市存在理由に「四つの法則」を挙げていることを評価。東京への指針として、多様性、混在の意義性を挙げ、未来の調和のために不協和音さえ取り組むべき対象とした。話題が東京のあり方だけに一般客も多く、ワインパーティも盛り上がった。

田中会員の提案による在港区各国大使館への建築アンケートは、40数カ国より返事があり集計中。まちや住居について国際比較をするのに、各国大使館員への調査は意味を持ち、まさにUIA大会向きである。引き続き震災をテーマに再アンケートも考慮中。

旧国立保健医療科学院(内田祥三設計)の保存、再利用について保存問題委員会と協力。港区側と話し合い、出来る協力はすると伝えた。アーキテックツガーデン出品参加。「中銀カペルタワー」の模型展示(田中会員の協力)を添えて、大沢会員らがパネルで当地域会を紹介した。JIA主体の問題意識からの「UIA東京大会への要望書」を提出もした。

〈(有)大倉富美雄デザイン事務所〉

JIA 目黒地域会

代表：松原 忠策



■ 地域を知るの「まち歩き」から

地域会発足と同時に始まった「まち歩きの会」は我々にとって地域を知り、実感し、あるいは何かを発見し、知見を深める上で最も有効な方法であったと思っている。「灯台下暗し」の例えではないが、意外と我々は自身が仕事をしたり暮らしたりしている地域について知らないことが多いのかもしれない。地域のコンテキストを読むということは歴史の流れの上に現在が存在するという意味でも地域を理解するうえで重要であり新たな興味を起させる。又、地理的な変遷を読み解くことは地域の防災にも役立つことが多い。即ち先人の知恵に学ぶことが多いからである。既に7回もの「まち歩きの会」を実施してきたが地域の住民の方々や区議会議員、行政の担当者など肩書きを忘れ楽しく散策のひと時を過ごしている。

〈事務局長：棚橋廣夫 / エーディーネットワーク建築研究所〉



呑川柿の木坂支流緑道にて



まち歩きの途中、東日本大震災募金運動に協力

■ 地域会一覧(2010年度)

	県名	地域名	代表者名
1	神奈川	JIA 神奈川	森岡茂夫
2	千葉	JIA 千葉	櫻井修
3	埼玉	JIA 埼玉	三浦清史
4	茨城	JIA 茨城クラブ	天茂彦
5	栃木	JIA 栃木クラブ	藤原宏史
6	群馬	JIA 群馬クラブ	神澤宣次
7	山梨	JIA 山梨クラブ	長田孝三
8	長野	JIA 長野県クラブ	赤羽吉人
9	新潟	JIA 新潟クラブ	塚本久志
10	東京	JIA 中野クラブ	小西敏正
11	〃	JIA 三多摩地域会	高田典夫
12	〃	JIA 杉並地域会	遠藤勝勲
13	〃	JIA 新宿地域会	菊地守
14	〃	JIA 城東地域会	伊藤政広
15	〃	JIA 文京地域会	野生司義光
16	〃	JIA 渋谷地域会	三井所清典
17	〃	JIA 世田谷地域会	小林正美
18	〃	JIA 千代田地域会	赤堀忍
19	〃	JIA 中央地域会	長谷川順持
20	〃	JIA 城南地域会	松本裕
21	〃	JIA 城北地域会	松本哲夫
22	〃	JIA 港地域会	大倉富美雄
23	〃	JIA 目黒地域会	松原忠策

ミケランジェロ会

部会事務局：阿部 一尋



2010年5月29日 新宿プロムナード展 搬入 約30作品
6月6日 鎌倉スケッチ会 10名 妙本寺 講評会「レストランバーくすの木」
6月26日 新宿プロムナード展 搬出
10月31日 アーキテックガーデン 搬入 INAX 銀座 10名 16作品
11月6日 アーキテックガーデン 搬出 INAX 銀座

絵、写真、書など同好の志の集まりで部会員は約20名。スケッチ会と画展出品を活動の中心としています。5月に新宿プロムナードで画展を1か月間開催。11月はアーキテックガーデンのINAX京橋ショールームで画展を開催。6月に鎌倉の妙本寺境内でスケッチ会を開催し約10名が参加しました。小町通りから入った路地のレストランバー「くすの木」のテラスでスケッチの講評会をしました。この様子はBulletin2011年5月号に写真掲載しました。新人募集中です。 (AB住計画)



鎌倉・妙本寺でのスケッチ 富安秀雄

デザイン部会

部会長：連 健夫



■ 昨年度デザイン部会では「プロセスの意味とヴァナキュラー性」をテーマに4回の講演会を実施しました。第1回は5月11日、松原弘典氏「日本の外で建築をつくるということ・中国とコンゴでの実践」、第2回は7月16日、藤村龍至氏「ARCHITECT2.0、グーグル的建築家像をめざして」、第3回は10月1日、深澤直人氏「Design Inevitable/ 必然的なデザイン」、第4回12月6日、河井敏明氏、田口



第4回のパネルディスカッション 長島孝一氏も参加

知子氏、田島則之氏「グローカル建築を考える」のパネルディスカッションではNPO建築家推進機構により地方会員へWEB配信しました。いずれもコメントーターに渡邊研司氏を迎え議論を深めることができました。

(連健夫建築研究室)

都市デザイン部会

部会長：鯉坂 徹



■ 内藤廣氏の「都市をめぐる土木と建築について」、山下馨氏の「神楽坂の街づくり」、難波和彦氏と池邊のみさんの「池邊陽の見つめていた都市とまちについて考える」、蓑原敬氏の「地域主権で始まる本当の都市計画・まちづくり」、原昭夫氏の「世田谷のまちづくりノこれまでとこれから」等のレクチャーや四谷の街歩きを開催。10月のアーキテック・ガーデンでは、東京の各地域会と連携した円卓セミナーで、青木仁氏から「21世紀日本の生活環境づくりと建築家の役割」、そして恒例のUDツアーは、群馬地域会のメンバーとも交流し、足尾・桐生・足利を約25人で廻った。そして、3月11日の震災、我々に何ができるのかを話し合うため、「担い手事業」で街づくりに取り組んだ部会員の報告と、震災復興で各地域の街づくりNPOをどのように支援できるのかについての意見交換を行った。



6月のUDツアー 25人が参加し、見て聞き話す+飲み歌う充実した2日間(桐生にて)

(株)三菱地所設計

住宅部会

部会長：鈴木 利美



活動する部会

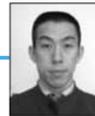
「美しく住みやすい街と創造性豊かな住文化の構築に寄与」を理念に、対市民活動、部会員の研鑽・交流、開かれた部会を柱に活動しました。年34回開催の市民向けセミナーでは街歩きやワークショップ形式を取り入れ、巡回作品展「いえ、イエ、家展」には2,000名近くの市民が来場。研鑽として、毎月の活動会議+勉強会。他にセミナー、見学会、懇親会、官民の会議への出席などをし、他会或いは全国の住宅部会等と交流もしました。東日本大震災に際し多くの部会員が派遣要請に応じています。UIA東京大会ではこれらの活動をより発展させた「世界住宅会議」を企画。住宅部会は若手会員も多く活発に活動しています。 (ダンス建築研究所)



住宅部会作品展

メンテナンス部会

部会長：宮城 秋治



■ 既存建物をメンテナンスしていくうえで耐震の視点は欠かせません。多くの都市がある沿岸や河川沿いではさらに津波に対する準備が求められています。宮城県牡鹿郡女川町では鉄筋コンクリート造の建物が津波で浮いて杭が抜けて折れ、津波渦の回転で建物も回転し、元にあった場所から移動して横倒しに漂着しています。どのように津波から逃げるのか、津波をやりすごすのか、津波に耐えることができるのか、建物の津波診断ができるのか。東北地方に被災調査団を派遣したメンテナンス部会ではこれから



津波についても深く考えていくこととなります。 (宮城設計一級建築士事務所)

津波についても深く考えていくこととなります。 (宮城設計一級建築士事務所)
東北地方太平洋沖地震による津波で鉄筋コンクリート造建物の転倒被害のあった宮城県牡鹿郡女川町。強い引き潮で埠頭近くまで流されて転倒している。

住宅再生部会

部会長：鯉井 勇



■ 住宅再生部会は戸建住宅の再生を理解する人なら誰でも参加自由とし、現在は50余名のJIA会員と非会員で構成され、隔月に1回、研究会・事例発表を行っています。この会での実践報告は多岐にわたり、現場見学会や研究旅行なども含めて、数多く開催されています。



住宅再生セミナー風景

東日本大震災においても、現地調査や被災度判定などで現地入りして活動しています。私達は建築に関わる古き良き環境を、次世代に残し引き継ぐという理念を現実化するため、建築家はもとより住み手である一般の人々の参加をも含め、よりよい関係の中で目標を提示し活動しています。 (監設計室)
入会希望者の連絡先：TEL03-3557-4711・FAX03-3557-4713
メールアドレス：kiss@camel.plala.or.jp (日政設計事務所・岸崎宛)
□ 会合周期
毎月第一水曜日に運営委員会による会議、隔月第一水曜日にセミナーを開催、10月のアーキテックガーデンでは一般に向けてセミナー・シンポジウムを開催、また不定期で現地見学会なども開催。
□ 現在のメンバー数：JIA会員・非会員を合わせ50名 (執筆者：日政設計事務所 岸崎孝弘)

情報開発部会

部会長：天神 良久



■ 情報開発部会は賛助会員Gグループと合同で活動しています。会員数は部会員が12名、Gグループ会員は9社です。月に一回部会を開催しています。主なテーマはIT系(CAD、CG、情報通信)情報と、時の技術動向に関する勉強会・見学会が中心です。講師をお呼びしたり、会員・Gグループ会員内から新情報を発表してもらったりしています。昨年は日本に2台しかない「6,050万画素の高画質デジタルカメラ」の実写の現場を見学して来ました。また、「建築家のCG画廊」をアーキテック・ガーデン内で開催しています。部会委員募集中！(気さくな部会です)。 (株)ケー・デー・シー



見学会集合写真

建築交流部会

部会長：上田 耕二



■ 部会の活動は、「建築家のメモ展」、見学会「時を経て輝きつづける建築の記憶～東京・関東の名建築を建築史家と訪ねる～」が中心ですが、気楽に楽しめる活動として、部会員の作品等を観る「ミニ見学会」と、飲物等を囲んで講師の方との会話を楽しむ「サロンセミナー」を始めました。会員の「興味のあること」と「楽しめること」を中心に、建築を媒介に様々な交流を目指しています。 (ユー・デザインファクトリー)



第1回サロンセミナー風景



船橋日大見学会風景

学芸祭部会

部会長：奥山 陽子



■ アーキテックガーデンでの演奏光景(建築家会館)
11月2日、メインセミナー後のパーティー会場の様子を紹介します。大川宗治さんのギター独奏、大川さんと洪田のピアノによるビートルズナンバー演奏、小林将樹さんのピアノ演奏です。新年会や新入会員の歓迎パーティーでも出張演奏しますので、声をおかけ下さい。奥山部会長(在イタリア)はヴェローナ在住の日本人歌手や音楽の留学生達と東日本震災支援チャリティーコンサートを企画中とのことです。 (洪田一彦 / (株)日建ハウジングシステム)



写真撮影：立石博巳



写真撮影：立石博巳

建築家写真倶楽部

部会長：兼松 紘一郎



■ まちを歩いて写真を撮り、それをアーキテック・ガーデンなどで公開して、都市やコミュニティの現状を把握し、写真を通しての建築論議を行うことが部会メンバーの楽しみでもある。同時に撮った写真や論議したことを、支部のHPに記載して建築文化を広く社会に伝えることも大切である。昨年度の「アーキテックガーデン」での撮影、展示した写真のテーマは「時代をリードした建築」だった。今年はその写真パネルをベースに論考を重ねてHP記載を行い、カメラを持ってまちを探索したい。 (兼松設計)



アーキテックガーデン会場展示

をリードした建築」だった。今年はその写真パネルをベースに論考を重ねてHP記載を行い、カメラを持ってまちを探索したい。 (兼松設計)

部会一覧(2010年度)

Table with 2 columns: Department Name and Chairman/Secretary. Includes sections like ミケランジェロ会, ワインクラブ, デザイン部会, etc.

Table listing names of donors and their affiliations, organized in columns. Includes names like 相越 直子, 飯田 善彦, 都之磨 順二, etc.



市民向けサイト「建築家 ONLINE」投稿募集

■ブックガイド (投稿)

ブックガイドはお薦めの本を紹介するコーナーです。本は、建築にかぎりません。専門家向け、一般者向け、学生向け、大人向けでも子供向けでもなんでもよろしいので、御紹介ください。

- ①書籍名
- ②著者名
- ③出版社名
- ④推薦者名
- ⑤難易度・・・☆の数を選んでください (HP参照)
- ⑥書評・・・文字数自由

■建築ガイド (投稿)

建築ガイドでは、私たち JIA 会員が建築の楽しさ・すばらしさを市民の皆さんへ紹介するコーナーです。巷の名所旧跡ガイドや建築専門誌とは異なり、建築家の目線・着目点を通した皆さんの言葉でご紹介ください。国の内外、建築や街並からディテールや手法までテーマや対象を問いません。ぜひご投稿下さい。

- ①タイトル又はテーマ
- ②写真3点 (JPEG形式・著作権使用の問題のないもの)
- ③各写真のキャプションと撮影者の名前
- ④説明文 300字以内 (テキスト形式) 建築家の「目線」「着目点」「楽しみ方」を皆さんの言葉で市民に向けた判り易い文章をお願いします。
- ⑤お名前、事務所名、住所、電話番号、URL ※尚、ご自身の作品等をご遠慮頂きます。

■今月の建物 (投稿)

今月の建物はホームページのトップページを飾るコーナーです。トップページでは毎月2件を交互に表示して、一ヶ月間掲載されます。一ヶ月を過ぎたものはバックナンバーでご覧いただくことができます。住宅に限らず掲載可能です。ぜひご投稿下さい。

- ①写真3点まで (JPEG形式・著作権使用の問題のないもの)
- ②撮影者の名前
- ③作品名
- ④説明文 300字以内 (テキスト形式)
- ⑤お名前、事務所名、住所、電話番号、URL ※月に2件を越えた場合には翌月などに調整させていただきます



URL http://www.jia-kanto.org/online/book_guide/



URL http://www.jia-kanto.org/online/kenchiku_guide



URL http://www.jia-kanto.org/online/month_archi/

会員向け広報誌「Bulletin」原稿募集

■海外レポート (自薦、推薦)

海外レポートは海外で活躍されている方から、その国の建築に関わる事について紹介しています。海外との交流や国際会議、見本市などの参加報告でも結構です。自薦、推薦どちらでも構いません。ぜひ編集部へご連絡ください。

- ①文字数 2500文字程度 (2頁)
- ②写真、図版 ・2～3点程度 (JPEG形式)
- ③執筆者の顔写真 (JPEG形式 / 白黒での掲載になります)
- ④タイトル
- ⑤図版キャプション
- ⑥お名前、事務所名、住所、電話番号、URL

■他人の流儀 (推薦や話を聞きたい人)

毎回連載中の「覗いてみました他人の流儀」に対しての意見を募集しています。この人に聞いてほしいという実名でもかまいません。老若男女を問わず、どんな業種でもアタックしたいと思います。ご意見を編集部へお寄せください。

- ①インタビューをしてほしい方の実名。
- ②インタビューをしてほしい方の業種や分野など。

■募集コーナー (会員に向けての告知や募集など)

巻末に会員の意見を掲載する「声」のコーナーを不定期に設けています。建築に関すること、JIAのこと、告知や募集など、どんな事でも構いません。皆様の自由なご意見をお寄せ下さい!

- ①文字数は 500文字程度まで (1/4～1/2頁程)
- ※掲載の可否、掲載の時期は、広報委員会に一任頂きます

■旅、映画、本のコラム (投稿)

巻末にあります「旅、本、映画」の紹介コーナーです。硬派な論評でも結構ですし、気軽な感想という感じの内容でも宜しいと思います。建築に関連させたものが望ましいですが、そうでなくてもOKです。いずれかの紹介記事をご投稿下さい。

- ①タイトル、サブタイトル、見出し、クレジット等部分 100文字以内
- ②本文、400文字以内 (テキスト形式)
- ③記事に関する写真を1～2点 (JPEG形式) ※尚、執筆者の顔写真は掲載しません。

■部会、地域会だより

地域会と部会の記事を随時募集しています。毎月2つの地域会に順番で原稿をお願いしていますが、部会はこちらからお声かけをしていません。部会、地域会ともに、興味深い活動報告などがありましたら、ぜひ編集部へご連絡ください。

- ①文字数 1200～1800文字程度 (1頁)
- ②写真や図版 1～2点 (JPEG形式) ※掲載時期は広報委員会に一任頂きます

全ての投稿、連絡先

JIA 関東甲信越支部事務局 菊地
E-mail: info@jia-kanto.org
TEL: 03-3408-8291 FAX: 03-3408-8294

Bulletin に広告を掲載しませんか

広報委員会委員長 河村 大助
Bulletin 編集長 湯浅 剛
支部事務局長 菊地 良一

■広報委員会では、支部会報誌 Bulletin への 2011 年度広告掲載申込みを募集しております。Bulletin は、1987 年以来 JIA 関東甲信越支部の支部会報誌として、支部会員建築家、関係官庁、教育機関、団体などに直接郵送する方法で 2010 年度は隔月号 6 刊と特別号 1 刊の合計 7 刊、毎号 3,000 部を発行する予定です。

広告掲載料金表		2011年5月現在	
掲載スペース	サイズ	会員料金	一般料金
表 2(表紙裏)	1 ページ (174mm×267mm)	¥ 150,000 -	-
表 3(裏表紙の裏面)	1 ページ	¥ 100,000 -	-
	半ページ (174mm × 128mm)	¥ 60,000 -	-
表 4(裏表紙)	1/3 ページ (174mm × 80mm)	¥ 40,000 -	-
	1 ページ	¥ 200,000 -	-
差込み A4(1 枚 / A3 二つ折り) ・印刷刷 (持ち込み)		¥ 50,000 -	¥ 80,000 -

「広報委員として今年度を振り返る」

編集後記

■ Bulletin の「建材情報」に注力しました。支部HPの「新製品情報」と「技術情報シート」からの転載です。賛助会員の方、ふるって掲載を。正会員の方、是非ご覧下さい。 [安東]
■ 私事ですが、年度の後半に少々ペースダウンしてしまいました。良い機会なので、今後は委員会活動を含め、無理をせず抑揚を付けたペースを作っていくと思います。 [池元]
■ 広報委員一年生としての年でしたが、いろいろな方に出会うことができ充実した年となりました。 [市村]
■ すべてが初めての経験でしたが、楽しく広報活動に取り組むことができた事感謝しております。今年もより一層良い情報を皆様に提供していきたいと思っています。 [大川]
■ まさか、1000年に一度の自然災害が自分の生きている間、それも広報委員の間起こると思っていませんでした。未だに頭の中はまっしろ。おろおろしています。 [杉本]
■ 私は写真担当と編集のお手伝いということで1年が過ぎました。新年の集いからアーキテクツガーデン、各委員会、部会のイベントや交流委員会、UIA 関連と幅広く写真取材してすべてを事務局のPCに保存してあります。(1,000枚位) ご利用下さい。 [立石]
■ 本当に激動の一年でした。ターニングポイントの予兆? ... 日本も JIA も ... 私。 [高橋]
■ イタリアに行ってスカルパとテラーニを見ることができました。カステルヴェッキオ美術館では日本で感じられない歴史をまじまじと見せつけられました。 [高安]
■ 今年度から広報委員に参加させていただきました。発信するより学ぶことの方が多い一年でした。 [土居]
■ 今回のアニュアル号はHPWGメンバーも参加して特集部分を担当させていただきました。締め切りのある作業が大変だと身をもってわかりました。なれない作業でしたが、広報委員一体となって完成できたと思います。 [中澤]

■ 編集長になり一年。皆さんのご協力により継続的に Bulletin を発刊することができました。震災の影響は続きそうですが、今後も前向きな誌面づくりを心がけていきたいと思えます。 [湯浅]
■ 地震、津波、原発と未曾有の困難に見舞われている日本にあって建築家の役割とは?と深く考えさせられます。建築も建築家の在り方へも多くの変化が求められ、突きつけられているのだと思います。 [米村]

退任のご挨拶

■ 任期を終えて広報委員を退任します近藤弘文です。広報活動は組織では重要なものと考え参加させていただきましたが、ブログ開設や自動投稿など外向き内向き両面で大きな変革があった時期に委員の皆様とともに活動できたのは幸せでした。これからは「公益」をキーワードに若い力がたの継続的かつ広報ならではのご活躍を期待しています。ありがとうございます。 [近藤弘文]

■ 「Bulletin って、こうやって作られているんだ!」・・・はじめて N さんに連れられて参加した編集 WG、そこは喧々譁々の熱い議論の場でした。それ以来、編集委員として広報委員会に参加し、取材先の選定・原稿書き・校正等々、設計とどちらが本業なのかと思う日々もありましたが、とても有意義な2年半でした。そして何よりも、Bulletin は JIA 関東甲信越支部の会員の皆様に支えられてできていることを肌で感じる事ができました。ありがとうございます。これからも新しい時代の広報のかたちを模索し発信し続けてください。 [三上紀子]

編集 : 社団法人 日本建築家協会
関東甲信越支部 広報委員会
委員長 : 河村 大助
副委員長 : 湯浅 剛・中澤 克秀
委員 : 安東 政朗・池元 真克・伊藤 暁・市村 宏文・榎本 雅夫
大川 宗治・近藤 弘文・近藤 剛啓・白石 健次・杉本 由美子
高橋 隆博・高安 重一・立石 博己・田中 宣彰・土居 志朗
三上 紀子・山本 成一郎・米村 ふみ子
編集長 : 湯浅 剛・中澤 克秀
副編集長 : 池元 真克・三上 紀子
編集委員 : 安東 政朗・伊藤 暁・市村 宏文・榎本 雅夫
大川 宗治・近藤 弘文・近藤 剛啓・白石 健次・杉本 由美子
高橋 隆博・高安 重一・立石 博己・田中 宣彰・土居 志朗
山本 成一郎・米村 ふみ子・菊地 良一

発行人 : 菊地 良一
発行所 : 社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA 館
Tel: 03-3408-8291(代) Fax: 03-3408-9294
印刷 : 株式会社 協進印刷

■ JIA 関東甲信越支部関連サイト一覧
・(社)日本建築家協会 (JIA) http://www.jia.or.jp/
・建築家 online (一般向け) http://www.jia-kanto.org/
・JIA 関東甲信越支部 (会員向け) http://www.jia-kanto.org/members/

©社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 2011

表紙デザイン: 伊波 サチヨ / 本文デザイン: 守田 真紀子

■ 販売価格 300 円 (本体 286 円 + 消費税 14 円) / 会員の購読料は会費に含まれています。

過去のUIA大会



JIAの歴史

UIAの歴史



ボンビドゥー・センター



シドニーオペラハウス

※UIA 公認のコンペは近年増えていますが、有名作品をピックアップしました。